

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和7年1月

住み続けるまちづくりへの取組み

～ニュータウンから半世紀、直面する少子高齢化への対応～

「通信」編集部では、前号の「纏向遺跡を活用したまちづくり事業」に続いて、「駅前探訪シリーズ」第3弾として、朝倉駅を核とした朝倉台の誕生から今日の状況を紹介し、県内外の多くのニュータウンが直面している少子高齢化への取組みに学び、市内での急速な少子高齢化対応に参考に取り入れられる方策を探るため、12月15日に関係者の方々に取材をお願いした。本会の小野田理事にコーディネイターとして、関係者の方々にご参加願ひ、地域住民が主体となって継続的に取り組まれている活動を聞かせて頂いた。



当日の参加者は、朝倉台住民の小野田・小西・福角・井上の各氏と、「地域包括支援センターきずな（東部地区対象）」の喜多氏、そして「通信」担当者（楠木・東・船谷）の8名。

【記事内容は、当日の懇談内容を要約編集したもの】

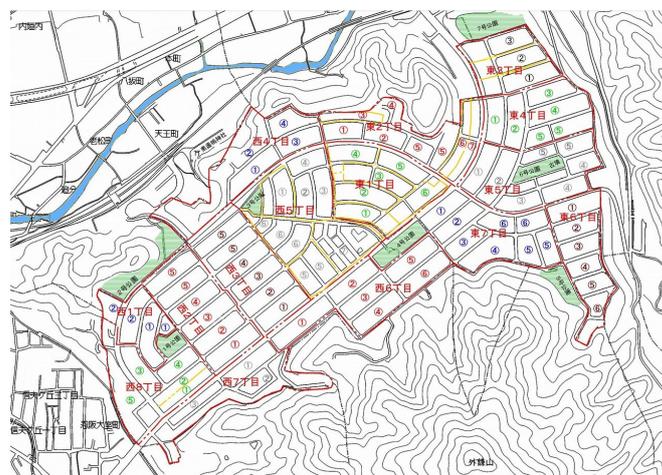
<朝倉台の歩みと現状>

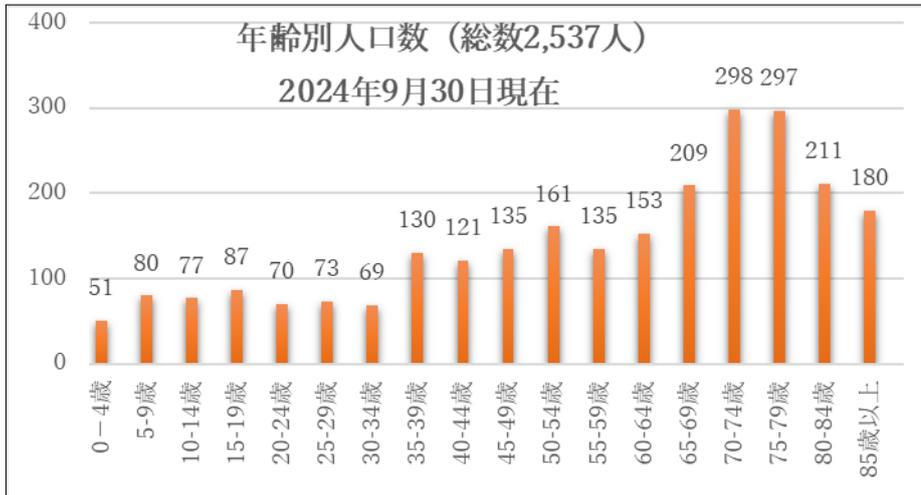
1976年に大阪のベッドタウンとして民間資本（近鉄不動産（株））で開発された一戸建て住宅を中心とする典型的な郊外型ニュータウンで、開発エリアとなった四大字（慈恩寺・脇本・忍坂・竜谷）にまたがる総面積62.4haで、総戸数1,240戸、計画人口4,900人の町であった。

現在（2024年9月30日集計）世帯数1,159戸、総人口2,537人、高齢者率（65歳以上）47.2%、後期高齢者（75歳以上）27.1%の状況となっている。

桜井市が公表している人口統計推移予想では、2060年に高齢者率41.7%、後期高齢者人口比率27.1%とされており、朝倉台の現状は35年先の状況となっている。

ニュータウンの特徴として、同世代の年齢層が入居してくる状況のもとで、地域全体の高齢化が進む一方で、次世代が転出していくことによってそこに拍車がかかる傾向が強くなる。





他方、「坂の街」としての入居当時は上質な街並みが、高齢者にとっては生活しづらい街並みと成って来たことが、参加者から話された。その為、体を悪くされると止むを得ず当地区から出て行かれる世帯もあることも、紹介された。

この間、コミュニティーバスの開設や充実、またさまざまな公

共的な交通手段の拡充を働きかけて来られたが、自動車がないと生活しづらい状況があり、車を運転しない者にとっては、買い物や通院等での不便を実感していると述べられていた。

＜住み続ける魅力ある街づくりへ活発な活動展開＞

朝倉台では、住民自身による様々な模索をしながら魅力ある街づくりが活発に進められて来ている。1979(昭和54)年頃から有志で自治会活動が開始され、親睦を図るソフトボール大会やハイキング、さらに駅前広場では2日間にわたり民踊大会が開催されて来た。

活動の拠点となる集会所が設置されると自治会が本格的に活動するようになり、そして団塊世代が転入したことにより子供の数が増加すると子ども会が発足し、朝倉台は活気が溢れるようになる。

1995年の阪神淡路大震災の際、朝倉台も震災被害(橋破損)が発生している。これを機会に朝倉台では自主防災会が設立され、2001年には第1回避難訓練(参加者499名)が実施され、2年後にはボランティア朝倉台が設立され、団塊世代を中心にボランティア活動も活発化していく。

2000年、厚生労働省は日本社会の高齢化に向けて「介護保険法」を施行する。それに対し朝倉台では、地域の急激な少子高齢化が進む中で、2004年全ての団体が横並びに手を結び問題解決に向けて協力することを目的として、自治会に関係する団体・ボランティア団体によって「朝倉台福祉対策ネットワーク」を設立する。その翌年に総務省の全国100地域「地域安心安全ステーション整備モデル地区」に選定されると「朝倉台安心・安全ネットワーク会議」に名称変更。

2003年 朝倉台自治会も共働きの母親からの強い



こども御輿行列(朝倉台自治会HPより)



避難防災訓練の様子(朝倉台自治会HPより)

要請を受け、桜井市に学童保育所の設置を要請し、学童保育所が設置される。また高齢者からも交通の利便性の確保を求める声があり、市営のコミュニティーバスの運行を要求し、朝倉台線の運行が実現した(2005年)。これにより、とりわけ高齢者にとっては団地から駅・スーパーへの交通の便が確保された。(小野田さんから提起頂いた文章より引用)

～活発なサークル活動やボランティア活動の展開～

現在、31ものサークルやボランティア組織があり、自主防災をはじめ、見守り活動、生きがい活動等々、さまざまな住民活動がおこなわれている。取材では、“もしもし元気会”の活動で、毎月1回「元気かい？」と電話での声掛け「福祉電話」の設置や利用の練習をおこなうなどの見守り活動や、“里山クラブ”の活動で、子ども達の畑づくりや校庭の草刈り、遊具のペンキ塗りなど朝倉小学校との連携活動なども紹介頂いた。

このような住民相互の交流や関係機関との連携活動が意識的にされており、「災害時住民支え合いMap」作成や「朝倉台夏祭り」というその活動の成果などを持ち寄る交流の場づくりもされている。

住民の助け合いの活動から”有償ボランティア活動”も行われており年間50件前後の利用もあるとのこと。また、「坂の街」であることから自治会活動に関わって住民に集会所に集まってもらうための送迎(片道100円)もしているとの紹介がされた。地域に住み続けられる魅力ある取組みが、さまざまな自主的活動を通じて、運営・工夫・努力されていることが分かった。



<地域課題について>

【地域の交通手段の確保】

念願の急行が停車するようになったが、通勤時間帯の朝7時台に停車せず、駅員のいない無人駅になってしまった。コミュニティーバスも設置当時より利用者が減少しており、身近な移動手段の確保が必要である。宇陀市で始まっている「かぎろひバス」のような制度導入も検討課題ではないかと情報提供をさせて頂いた。



宇陀市営有償バス(かぎろひバス)

【若い世代の転入拡大】

交通の利便性や地価等を考慮して居住場所を選ぶのであれば、朝倉台は住宅地としては優れた所である。しかし高齢で病弱となると「坂の街」であることが住むことに困難な要因としてある。若い世代にとっては、子育ての支援などの行政的整備が一層進められると、転入も期待されるし、現に空家などには若い世代の入居が増えてきているようである。他方、地域のいろいろな活動が活発に行われていることの魅力を積極的に発信することによって、高齢者にとっても住みやすいことを再確認してもらうことも大切だと感じた。

【～取材を通じて～】

ニュータウンとしての朝倉台は、まもなく誕生50周年を迎えようとしている。見てきたように少子高齢化の急速な進行を迎えてきた中、住みよい魅力ある地域づくりを進めて来られていることは、国や県のモデル地域として認定もされて来た歴史もあり、県内でも高く評価されている。

今日、人口減少は避けられない現実であるが、桜井東中学校区では2030年（令和12年）を目途として、小中学校（朝倉小・初瀬小・桜井東中）の統合化が計画されており、今後の地域コミュニティのあり方や、誰もが住み続けられる魅力ある地域づくりが一層の広がりを持って進められることが求められるといえる。

新興住宅地と旧来の集落との連携によって、住み続けられる地域共生社会づくりが広がっていくことを期待したい。又、その為にも地域のさまざまな官民の社会資源からの支援強化も必要と言えよう。（編集子 楠）

桜井図書館友の会

● 読書会は『水滴』 目取真 俊（めとるま しゅん）著
ある日突然足が腫れるそれも瓜のように。パンパンに膨らんだ親指の裂け目から水が滴り落ちる。それを夜な夜な吸いにくる者たちは、沖縄戦を共に過ごした同士の亡霊達だった。

（芥川賞受賞作品）

日 時：令和7年1月25日（土）午前10時～12時

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室（エルト桜井2階内）

問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949 会員以外の参加も歓迎します。



編集後記

令和6年の世相を表す漢字に『金』が選ばれました。パリ五輪や大谷選手の活躍など光をあらわす（キン）と政治の裏金問題や物価高騰など影をあらわす（かね）を意味している。2位は『災』（さい）で、能登半島地震や航空機事故さらには奥能登豪雨など災害を意味し、まさしく龍が現れるという甲辰（きのえたつ）を彷彿させる一年でした。

そして、令和7年乙巳（きのとみ）は、60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。これまで当紙面にて桜井市内各地のまちづくり活動を紹介して来た皆さん方の努力が実る年となる事を祈る正月です。（編集子 俊）

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL: 090-3652-8104